

よらしいや
よらしいや

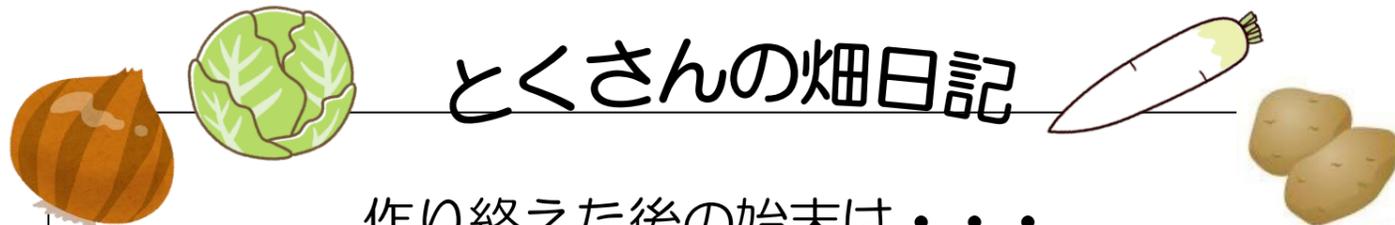
公民館



生成 AI（人工知能）に負けるな!!

最近、AI（人工知能）が飛躍的に進化して、覚えるだけでなく失敗をしながら新しいことを学んでいくそうです。だから、今のところ質問に対する答えは間違っていることがあり、巷ではまだ正確ではないという評価のようです。また、読書感想文を書いたり新しいアイデアを産み出したりもするそうです。しかし、失敗をしながらも新しいことを学んでいくという過程は、人間の思考の流れそのものではないでしょうか？人間でも、本を読んだり人と会話したりすることで、自分の知識や思考の範囲を広げます。AIも学習させることで、覚えるだけでなく、どんどん賢くなるそうです。

人間の得意としている「失敗をしながら成長する」をAIがやってしまうのだから、今後人間がAIに負けてしまうのではないかと危惧します。AIに負けるな 人間!!



とくさんの畑日記

作り終えた後の始末は・・・

今年は梅雨に入るのが遅かったために、ジャガイモの収穫は梅雨までに全て行うことができました。有難いことです。芋の出来は、巨大化したものはありましたが、ますますでした。やはり習ったことはやってみるもんだと思いました。AIに負けたくない・・・。

そこまでは良かったのですが、収穫した後、いつも通り数日間何もせずほっておきました。しかし、私より後に収穫された近くの畑の方は、すぐに耕して平らにし、次の準備をしておられました。大根までには間があるのになあと思いながら、それから数日して私もやろうと思い、草が生えた畑を管理機で耕しました。しかし、何しろ収穫から日が経っているので地面が固く、草も生えているので、まず平らにするのが大変で、平らになっても草が混じっていて散々でした。収穫したらすぐに耕すと、短時間できれいにできます。草が生えるまでに耕すだけでも作業が楽になるので、「働き方改革」になるのではと感じました。

秋の野菜づくり講習会を7月29日（月）10時に予定していますので、これからでも家庭菜園を始めてみようかという方は、是非ご参加ください。

詳細については、回覧しています。



文とは関係ないけれど、また捕まったハクビシン 4匹目。いったい何匹いるのだろう？

シリーズ 知ってましたか、青谷のこと？

青谷かみじち史跡公園マスコットキャラクター

「あおや かみじろう」について、どれだけ知ってる？

今回は、青谷かみじち史跡公園の公式キャラクターについて調べてみました。

◎どうやってあのキャラクターになった？

弥生人の復顔像「青谷上寺朗」が大変人気になったため、キャラクター化しようという話になりました。とてもかわいいキャラクターができたので、ねんりんピックのキャラクターを決める際にあおやかみじろうを使おうということになったそうです。現在、ねんりんピックのPRで大活躍していますね。



因みに、トリピーは1997年境港で開かれた夢みなと博覧会のマスコットキャラクターですが、役割を終えた後は、県のキャラクターとしていろいろな所で使われていますね。今度は、「あおや かみじろう」がいろいろな所で使われるでしょう。すでに選挙にも使われていましたね。

◎その決め方は？

キャラクターのイラスト案を3種類作ってもらい、当時の青谷小・青谷中・青谷高の生徒全員にアンケートした結果、子どもをモチーフにした現在のキャラクターに決まりました。生徒たちがおじさんキャラを選んでいたら、違うイメージになっていたかも知れないですね。

◎ラインスタンプが発売されている？

より多くの人に広めようということで、ラインスタンプにして販売しています。次のQRコードにアクセスしてみてください。



ラインスタンプの購入
全40種類120円

◎ところで、かみじろうは何歳？

見た目は子どもですが、実年齢は1800歳だそうです。

◎キャラクターは利用できる？

著作権は、鳥取県にあります。画像利用申込書に利用目的などを書いて、青谷かみじち史跡公園に提出すれば使えます。用紙は青谷地区公民館にもあります。青谷かみじち史跡公園のPRになるので、地域イベントやチラシなどにどんどん使ってほしいということです。

◎かみじろうの着ぐるみもある？

着ぐるみは、ねんりんピックのPRで大活躍中です。ねんりんピックが終わったら、かみじち史跡公園が「終の住み家」になるかも？

◎かみじろうのキャラクターに aoya と書いてあるのに気付いた？

見つけましたか？頭に aoya と書いてありますよ。

私も気付きませんでした。

※このように、かみじろう君は魅力いっぱいです！



おわりに

6月には青谷地区内の9つの町区で菖蒲綱引きが実施されました。その様子は表面に掲載していますが、私の住む灘町区の菖蒲綱には他地域に住んでいる人やその子どもたちも参加し、とても賑やかな菖蒲綱引きになりました。久々に幼馴染みと会って嬉しかったようです。このような伝統的な行事は、青谷の文化としてずっと継承して行ってほしいですね。